

R 2年度 真岡東中学校 いじめ防止基本方針

1 いじめのない学校づくりに向けて

全ての教職員が、「いじめは絶対に許されない」「いじめはいじめる側が悪い」ということや「いじめはどの子どもにも、どの学校においても起こり得る」ということを強く認識し、いじめのない学校づくりに向けて学校組織をあげて取り組む。

(1) いじめの未然防止に向けて

- 生徒一人一人が、意欲をもって学校の様々な教育活動に取り組めるよう「学業指導の充実」に取り組む。
- 生徒一人一人に対して、いじめの問題を自分自身の問題として強く認識させ、「いじめを許さない心」や「いじめを起こさない力」を育成することで、自ら解決を図れるよう、生徒会が行う「いじめ防止集会」や、「道徳」、「学級活動」による計画的な指導を実践する。
- 教職員の言動が、生徒を傷つけたり、他の生徒によるいじめを助長したりすることがないように、教職員の人権感覚を磨くとともに、指導に細心の注意を払う。

(2) いじめの早期発見に向けて

- いじめは、大人が気付きにくく判断しにくい状況で行われるということを、教職員一人一人が強く認識する。
- 生徒の声に耳を傾け、行動を注視し、些細な変化を見逃さないようにする。
- いじめの疑いがあることを認識した場合には、決して抱え込むことなく組織的な対応を図る。
- 日頃から生徒との信頼関係を深め、いじめを相談しやすい体制を整える。
- 日頃から保護者との信頼関係を深め、保護者との情報共有に努める。
- 生徒、保護者からのいじめの相談・通報の窓口を明確にする。
- 「いじめのアンケート（毎月、第1、3、4火曜日実施）」により、いじめの早期発見に務める。
- 「生活に関するアンケート（7月・11月・2月実施）」により、多くの生徒から情報を得る。

(3) いじめの早期解決に向けて（組織的な対応）

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○いじめのアンケートによる、担任、学年主任、生徒指導による情報共有と連携。
「アンケート」→「担任の聞き取り」→「学年主任」→「生徒指導部会」
→「学年主任会による経過報告」○生活のアンケートによる教育相談の充実と情報共有、連携。
「アンケート」→「教育相談」→「生徒指導部会」→「学年主任会」 |
|--|
- いじめられている生徒や保護者の立場に立った対応を常に行う。
 - いじめられている生徒を徹底的に守り通す。
 - いじめの疑いがあることを認識した場合には、その場でその行為を止めさせたことのみで安易に解決したと思いつくことなく、組織的かつ継続的な対応を図る。

- いじめる生徒については、行為の善悪をしっかりと理解させるとともに反省させ、二度といじめることのないよう、学校組織としてしっかりと指導する。
- 保護者に対して、学校組織としてしっかりと説明責任を果たしつつ、学校と保護者が一致協力していじめの解決に向け取り組めるよう努める。

2 いじめ防止等の対策のための組織について

いじめ対策委員会を組織し、「いじめの起こらない学校づくり」に向け、様々な教育活動を通じた未然防止対策を行うとともに、いじめが疑われる事態を把握した際には、早期の解決に向け組織的に対応する。

また、本委員会において、いじめの問題への取組が計画的に進んでいるかどうかのチェック等を行い、学校いじめ防止基本方針をはじめとした学校の取組が実効あるものとなるよう改善を図る。

(1) 生徒指導部会（未然防止・早期発見の対策に係る部会）《定期開催》

①部員

生徒指導主事、教育相談担当、各学年生徒指導担当、等

②実施する取組

ア. 未然防止対策

- ・いじめの未然防止に向けての全体指導計画の立案
- ・全体指導計画の進捗状況の把握と改善
- ・いじめ相談窓口の設置と教育相談体制のチェック
- ・校内研修会の企画、立案
- ・要配慮生徒への支援方針決定

イ. 早期発見対策

- ・いじめの状況を把握するためのアンケートの実施と結果分析・共有
- ・情報交換による生徒の状況の共有

(2) いじめ対策委員会（いじめ認知時の対応に係る委員会）《随時開催》

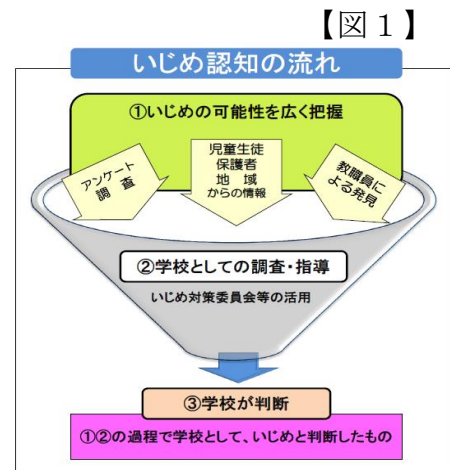
①委員

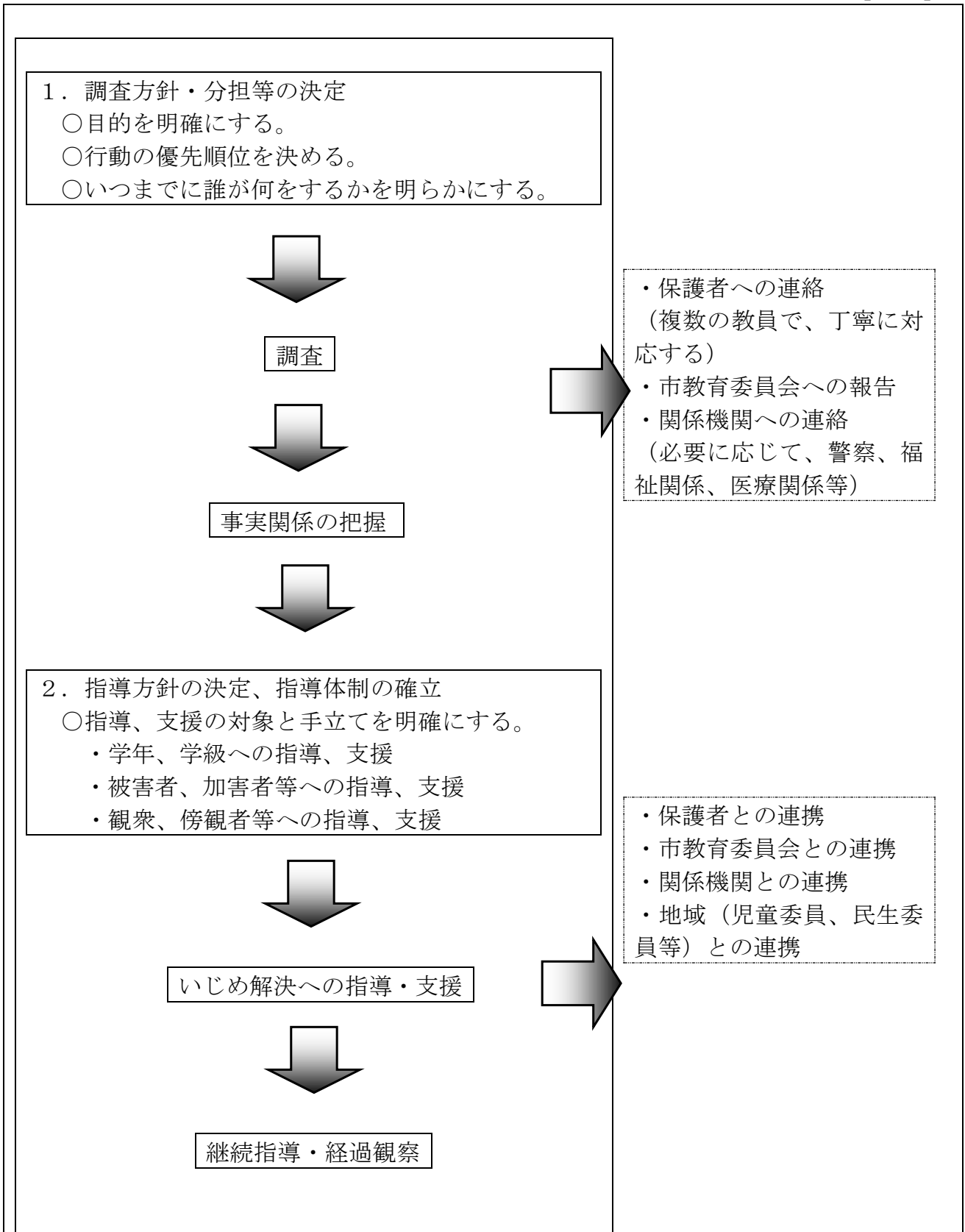
校長、教頭、教務主任、学年主任、学級担任、生徒指導主事、養護教諭
教育相談担当、その他部活動顧問等関係の深い教職員、必要に応じて本校 S C 等

②実施する取組

ア. 事実関係の把握【図 1 参照】

- ・アンケート調査、生徒、保護者、地域からの情報及び教職員による発見等からいじめの可能性を広く把握し、共有する。
- ・関係のある生徒への事実関係の聴取や緊急アンケートの実施等により組織的調査を迅速に行う。





3 具体的対応

いじめの問題に対して、全ての教職員が自らの問題として切実に受け止め、毎日の教育活動を行うとともに、いじめの問題解決に向け組織的に対応する。

(1) いじめの未然防止対策

①教職員のいじめに対する意識の高揚及び指導力の向上

○いじめに関する全教職員対象の校内研修会を実施する。

○いじめに関するチェックリスト（教職員用）を用いた自己診断を実施する。

②校内体制のチェック及びチェックに基づいた改善

○学校評価や生徒・保護者アンケートで「いじめに関する校内体制」に関する確認を行い、それに基づいた改善を図る。

③いじめのない学校づくりに向けた指導の充実

○道徳教育、特別活動、人権教育など様々な教育活動の指導計画の中にいじめのない学校づくりに向けた指導を位置づけ、組織的かつ計画的な指導に努める。

ア. 学業指導の充実

・「帰属意識の高い学級」「規範意識の高い学級」「互いに高め合える学級」を目指し、学びに向かう集団づくりに努める。

・「自信をもたせる授業」「コミュニケーション能力を育む授業」「一人一人の実態に配慮した授業」を目指し、一人一人が意欲的に取り組む授業づくりに努める。

イ. 道徳教育の充実

・道徳教育を充実させることにより、豊かな心を育み、人間としての生き方の自覚を促し、生徒の道徳性を育成する。

・「とちぎの子どもたちへの教え」を活用し、「人として、してはならないこと、すべきこと」を教え、人としてよりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する。

ウ. 特別活動の充実

・特別活動の特質である望ましい集団活動を通して、人間関係を築く力を育てる。

・生命や自然を大切に作る心や他人を思いやる優しさ、社会性、規範意識などを育てるため、自然体験活動や宿泊体験学習など様々な体験活動の充実を図る。

エ. 人権が守られた学校づくりの推進

・生徒会による「いじめ防止集会」を実施し、生徒一人一人に対して、いじめの問題を自分自身の問題として強く認識させ、「いじめを許さない心」や「いじめを起こさない力」を育成する。

・生徒一人一人が、自他の人権の大切さを認め合うことができるよう、様々な場面を通してしっかり指導する。

・自らの言動が生徒を傷つけたり、他の生徒によるいじめを助長したりすることがないように、教職員一人一人が人権感覚を磨くとともに、指導に細心の注意を払う。

- ・いじめをさせないという人権に配慮した学級の雰囲気づくりを心がけるとともに、自分たちでいじめの問題を解決できる力を育成する。

④保護者・地域との連携

- 入学式や保護者会（4月）、学校のホームページ等を通じて、保護者・地域に対し学校のいじめに係る対策等について周知する。

⑤ネットいじめへの対応

- 携帯電話、スマートフォン等の所持を禁止するよう、保護者に協力を仰ぐ。
- 技術・家庭科や学級活動を活用し、生徒一人一人に対して、インターネットのもつ利便性と危険性をしっかり理解させながら、情報機器の適切な使い方について指導する。
- 家庭における情報機器の使用について、保護者と協力して適切に指導ができるよう啓発に努める。

(2) 早期発見に関する対応

①いじめを相談しやすい体制づくり

- 生徒、保護者からのいじめの相談・通報窓口を周知することにより、相談しやすい体制を整える。
- いじめに悩んだときの相談方法について、リーフレット等の配布をとおして周知する。

②情報交換による共有

- 朝の職員打合せ後の「学年打合せ」で、気になる生徒の情報を共有し、組織的に対応できる体制を整える。
- 生徒指導委員会、生徒指導部会での情報交換の場を活用して、生徒の情報を共有、指導に生かす。
- スクールカウンセラーや養護教諭と情報を共有できる体制を整える。

③アンケートの実施

- 生徒が安心していじめを訴えられるような「いじめの実態を把握するための調査」を定期的及び随時実施することにより、早期発見に役立てていく。

④教育相談の充実

- 原則として、教育相談週間を学期に一度設定する。
- 生徒が気軽に相談できる体制を整備するとともに、様々な悩みに適切に対応し、生徒が安心して学校生活を送れるよう配慮する。
- 学校における教育相談について、保護者にも十分理解され、保護者の悩みにも応えることができる体制にする。

(3) 早期解決に向けた対応

①いじめ対策委員会（いじめ認知時の対応に係る委員会）による調査

- いじめ対策委員会（いじめ認知時の対応に係る委員会）が中心となり、関係のある生徒への聴取や緊急アンケートの実施等により、事実関係について迅速かつ的確に調査する。その際必要に応じて、県教育委員会から派遣を受けるなどにより、外部専門家とも連携をとる。

②保護者への報告

○いじめを受けた生徒の保護者及びいじめを行った生徒の保護者に対し、速やかに事実を報告し、いじめの事案に係る情報を共有する。

○双方の保護者に対し、いじめの早期解決のための協力を依頼する。

③いじめられている生徒及び保護者への支援

○いじめられた生徒や保護者に対し、徹底的に守り通すことや秘密を守ることを伝え、できる限り不安を取り除くとともに、安全を確保する。

○いじめが解決したと思われる場合でも、継続して十分な注意を払い、必要な支援を行う。

○いじめを解決する方法については、いじめられた生徒及び保護者の意向を踏まえ、十分話し合った上で決定する。

④いじめた生徒への指導及び保護者への助言

○いじめた生徒に対しては、毅然とした態度で指導し、「いじめは絶対に許されない」ということを理解させるとともに、自らの行為の責任を自覚させる。

○いじめた生徒が抱える問題など、いじめの背景にも目を向けながら、当該生徒が二度といじめを起こさないよう、継続的に指導する。

○いじめた生徒が十分反省し行動を改めることができるよう、学校と保護者が協力して指導に当たる。

⑤いじめが起きた集団（観衆・傍観者）への働きかけ

○いじめの問題について話し合わせるなど、生徒全員に自分の問題として考えさせ、いじめは絶対に許されない行為であり、根絶しようとする態度を行き渡らせるようにする。

○はやし立てたりする行為は、いじめを助長するものであり、いじめと同様であることを指導する。

○いじめを止めさせることはできなくても、誰かに知らせるよう勇気を持つように伝える。

⑥ネットいじめへの対応

○ネットいじめを発見した（情報を受けた）場合には、いじめ対策委員会で情報を共有するとともに、市教育委員会と連携しながら当該いじめに関わる情報の削除等を求める。

○生徒の生命、身体または財産に重大な被害が生じる恐れがあるときは、直ちに真岡警察署に通報し、適切に援助を求める。

⑦警察との連携

○いじめが犯罪行為として取り扱われべきものであると認めるときは、真岡警察署と連携して対処する。

⑧重大事態への対応

○学校がいじめ防止対策推進法第 28 条により、当該事案が重大事態と判断した場合には以下のとおり対応する。

ア. 市教育委員会に報告するとともに、直ちに真岡警察署等の関係機関に通報し、適切な援助を求める。

イ. 当該いじめの対処については、市及び県教育委員会と連携し、弁護士、医

師などの外部専門家の協力を仰ぎながら、原則として本校のいじめ対策委員会（いじめ認知時の対応に係る委員会）が中心となり、学校組織をあげて行う。

- ウ. 当該重大事態に係る事実関係を明確にするための調査については、市教育委員会と連携しながら、学校組織をあげて行う。
- エ. いじめを受けた生徒やその保護者に対し、調査によって明らかになった事実関係について、経過報告を含め、適時・適切な方法により、その説明に努める。
- オ. 当該生徒及びその保護者の意向を十分に配慮した上で、保護者説明会等により、適時・適切に全ての保護者に説明するとともに、解決に向け協力を依頼する。
- カ. 生徒指導部会（未然防止・早期発見対策に係る部会）を中心として速やかに学校としての再発防止策をまとめ、学校組織をあげて着実に実践する。

4 いじめに関する年間指導計画

4月	入学式	・生徒指導による新入生・保護者への「いじめ対策委員会」の周知。
	現職教育	・「真岡東中学校いじめ防止基本方針」の周知。
5月	生徒総会	・生徒会による「いじめ防止集会」の実施。 校内への掲示
	Q-U	・Q-Uによる生徒理解と支援。
6月	教育講演会	・生徒、保護者、教員に向けた講演会。 (ネットトラブル、いじめ等)
7月	教育相談	・生活アンケートの実施と教育相談。
	学校評価	・職員による学校評価。
	生徒指導講話	・1学期終業式に生徒指導主事による講話。
9月	生徒アンケート	・夏休みの生活や悩みに関するアンケート。
10月		
11月	二者・三者面談	・生活アンケートの実施と二者・三者面談。
12月	学校評価	・学校評価を受け、生徒指導部による改善点の検討。
	生徒保護者アンケート	・生徒、保護者による学校評価アンケートの実施。
	生徒指導講話	・2学期終業式に生徒指導主事による講話。
1月	生徒アンケート	・冬休みの生活や悩みに関するアンケート。
2月		
3月	教育相談	・生活アンケートの実施と教育相談。
	生徒指導講話	・3学期終業式に生徒指導主事による講話。

※「いじめアンケート」は毎月、第1・3・5の火曜日に実施
(H29.3改訂)